

哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
哲学特論Ⅰ	哲学的論理学入門 Introduction to Formal Logic	2	大森 仁	前期 火曜日 4講時
哲学特論Ⅱ	哲学的論理学入門	2	大森 仁	後期 火曜日 4講時
哲学特論Ⅲ	画像表象に関する分析哲学的研究	2	清塚 邦彦	後期集中 その他 連講
生命環境倫理学特論Ⅰ	研究の倫理とコミュニケーション	2	原 塑	後期 金曜日 5講時
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	城戸 淳・原 塑・直江 清隆	前期 月曜日 5講時
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	城戸 淳・原 塑・直江 清隆	後期 月曜日 5講時
哲学研究演習Ⅰ	生命の哲学	2	直江 清隆	前期 火曜日 3講時
哲学研究演習Ⅱ	・技術の哲学	2	直江 清隆	後期 火曜日 3講時
哲学研究演習Ⅲ	アーレント『精神の生』講読	2	森 一郎	前期 金曜日 3講時
哲学研究演習Ⅳ	カントの目的論	2	城戸 淳	前期 木曜日 2講時
哲学研究演習Ⅴ	アリソン『カントの超越論的観念論』を読む	2	城戸 淳	後期 木曜日 2講時
哲学研究演習Ⅵ	ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む	2	嶺岸 佑亮	前期 水曜日 3講時
哲学研究演習Ⅶ	ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む	2	嶺岸 佑亮	後期 水曜日 3講時
古代中世哲学研究演習Ⅰ	アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む	2	文 景楠	前期 金曜日 3講時
古代中世哲学研究演習Ⅱ	新プラトン主義の秘儀論を読む	2	荻原 理	後期 月曜日 4講時
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	前期 水曜日 5講時
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	後期 水曜日 5講時
現代哲学研究演習Ⅰ	現象学研究	2	直江 清隆	前期 火曜日 5講時
現代哲学研究演習Ⅱ	現象学研究	2	直江 清隆	後期 火曜日 5講時

哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
科学哲学研究演習Ⅰ	科学的理解1	2	原 塑	前期 金曜日 4講時
科学哲学研究演習Ⅱ	科学的理解2	2	原 塑	後期 金曜日 4講時
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	メディアと情報倫理	2	原 塑	前期 金曜日 5講時

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM12406, 科目ナンバリング：LIH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門

Introduction to Formal Logic

2. Course Title (授業題目) : An introduction to philosophical logic

3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of modern logic through classical propositional logic.

5. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course is designed for students (i) to understand what logic is, and (ii) to understand the soundness and completeness result for classical propositional logic which is the basic and important result modern logic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM22408, 科目ナンバリング：LIH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門
2. Course Title (授業題目)：An introduction to philosophical logic
3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、様相論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of both technical as well as philosophical topics related to modal logic.
5. 学習の到達目標：様相論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed for students (i) to understand the soundness and completeness result for modal logic, and (ii) to understand philosophical topics related to modal logic.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - [1] ガイダンス
 - [2] 様相論理の形式言語
 - [3] 様相論理の意味論 (1)
 - [4] 様相論理の意味論 (2)
 - [5] 様相論理の意味論 (3)
 - [6] 様相論理の意味論 (4)
 - [7] 様相論理の証明体系 (1)
 - [8] 様相論理の証明体系 (2)
 - [9] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (1)
 - [10] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (2)
 - [11] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (3)
 - [12] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (4)
 - [13] 様相論理に関連する哲学的話題 (1)
 - [14] 様相論理に関連する哲学的話題 (2)
 - [15] まとめ
8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 その他

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：清塚 邦彦

コード：LM98831, 科目ナンバリング：LIH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：画像表象に関する分析哲学的研究

2. Course Title (授業題目)：Analytical philosophical research on pictorial representation

3. 授業の目的と概要：本講義では現代の分析哲学において展開されてきた画像表象の本性をめぐる論議について学び、そこで用いられている一連の概念や、争点となってきた一連の命題について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will learn about the debate over the nature of pictorial representation that has been developed in contemporary analytical philosophy, and aim to deepen our understanding of the series of concepts used in the debate and the series of propositions that have been the subject of controversy.

5. 学習の到達目標：本講義では、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討することを通じて、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念と画像概念の関連について理解を深め、具体的な事例の分析に活用できるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, we will introduce and examine major theories in analytic philosophy concerning the nature of pictorial images, and we will explore related concepts such as "resemblance," "illusion," "symbol system," "perception," and "imagination." The goal is to deepen your understanding of key concepts and propositions and be able to utilize them in analyzing specific cases.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、画像の多様な形や、多様な関連事例についての予備的な考察の後に、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討を行う。またその中で、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念が画像概念とどのように関連について検討を行う。講義日程の予定は下記の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 予備的な考察（1）いくつかの概念的区別
- 3 予備的な考察（2）絵の近縁種について
- 4 類似性について
- 5 ビアズリーの類似説について
- 6 類似説への批判
- 7 ゴンブリッチのイリュージョンの理論
- 8 ゴンブリッチ（続）
- 9～10 グッドマンの記号システムの理論
- 11～12 ウォルハイムの知覚説
- 13～14 ウォルトンのごっこ遊び理論
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

平常点ならびに期末レポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：清塚邦彦『絵画の哲学』勁草書房、2024年 参考書は随時指示する。

10. 授業時間外学習：講義と並行して教科書の該当箇所について予習ならびに復習として学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25502, 科目ナンバリング：LIH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

2. Course Title (授業題目) : Research Ethics and Science Communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これら是对立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになり、融合が進んでいます。そこで、この授業では、研究倫理の観点を考慮しつつ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of research to society and procuring public support for science. However, nowadays, they are increasingly merging, with researchers and citizens sharing society's demands and concerns about research, and researchers taking these into account in their research activities, which is believed to enhance the ethical credibility of research and society's support for research. Therefore, this class will lecture on science communication, taking into account the perspective of research ethics.

5. 学習の到達目標：1. 科学コミュニケーションの基礎理論とその問題点を理解する。

2. 東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : 1. to understand the basic theory of science communication and its problems

2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。

対面とオンラインを併用します。

1. イントロダクション

2～7. 科学コミュニケーションの理論

8・9. 東日本大震災と科学コミュニケーション

10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケーション

12・13. コロナ禍と科学コミュニケーション

14. 科学コミュニケーションの新しい課題

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳・原 壱・直江 清隆

コード：LM11504, 科目ナンバリング：LIH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳.原 壘.直江 清隆

コード：LM21504, 科目ナンバリング：LIH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要： 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法
研究発表をすること（単位認定のためには必須）
その上で、
発表内容 35%
討論へ参加 30%
討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12309, 科目ナンバリング：LIH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：生命の哲学
2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of life
3. 授業の目的と概要：20世紀以降の生命の哲学／生物学の哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of life and philosophy of biology since the 20th century and understand their basic structure.
5. 学習の到達目標：・生命哲学／生物学の哲学の基本概念について説明をすることができる。
・生命哲学／生物学の哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of life and the philosophy of biology
・Discuss the fundamental issues in the philosophy of life and the philosophy of biology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』/ Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス 生物学の哲学への招待』)の文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。
 - 1, オリエンテーション
 - 2, ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(1)
 - 3, ゲシュタルトクライス ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(2)
 - 4, ゲシュタルトクライス 相即原理
 - 5, ゲシュタルトクライス 生物学的行為と主体
 - 6, ゲシュタルトクライス パトスの範疇
 - 7, 生物学的機能 生物の固有機能
 - 8, 生物学的機能 機能と自然選択
 - 9, 生物学的機能 機能とデザイン
 - 10, 生物学的機能と適応、自然のデザイン
 - 11, 進化的説明(1)
 - 12, 進化的説明(2)
 - 13, 進化と人間本性(1)
 - 14, 進化と人間本性(2)
 - 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス』木村敏、濱中淑彦訳 / Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス』松本 俊吉監修・解題は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅱ／Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22307, 科目ナンバリング：LIH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：・技術の哲学

2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of technology

3. 授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology

5. 学習の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。

・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of technology

・Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(P. =P. フェルバーク『技術の道德化』/Maarten Franssen et al. (ed.) Philosophy of Technology after the Empirical Turn 2016)を文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 歴史と背景(1)
- 3, 歴史と背景(2)
- 4, 現象学と解釈学(1)
- 5, ポスト現象学と解釈学(2)
- 6, 批判理論(1)
- 7, 批判理論(2)
- 8, 分析哲学的アプローチ(1)
- 9, 分析哲学的アプローチ(2)
- 10, デザインの哲学
- 11, リスクの哲学都倫理
- 12, 情報技術から哲学へ (1)
- 13, 情報技術から哲学へ (2)
- 14, ロボット工学と人工知能
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート(報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%

9. 教科書および参考書：

直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」『知の生態学的転回』2013。直江清隆「行為の形としての技術」『思想』2001-7。マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆、久木田水生監訳、丸善出版、2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020) ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LM15307, 科目ナンバリング：LIH-PHI630J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーレント『精神の生』講読

2. Course Title (授業題目)：Reading Arendt: The Life of the Mind

3. 授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの著書の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

*教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

We meet all the class members at the real classroom.

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.

2. To learn the significance of thinking radically.

3. To learn the significance of the history of philosophy.

4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern human condition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第一部『思考』第3章第16節（その1）第1～6段落

第3回：『思考』第3章第16節（その2）第7～14段落

第4回：『思考』第3章第16節（その3）第15～19段落

第5回：『思考』第3章第16節（その4）第20～25段落

第6回：『思考』第3章第17節（その1）第1～5段落

第7回：『思考』第3章第17節（その2）第6～11段落

第8回：中間考察

第9回：『思考』第3章第17節（その3）第12～18段落

第10回：『思考』第3章第17節（その3）第19～23段落

第11回：『思考』第3章第18節（その1）第1～11段落

第12回：『思考』第3章第18節（その2）第12～21段落

第13回：『思考』第3章第18節（その3）第22～30段落

第14回：アーレントの「一者のなかの二者」論

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

・ Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978

・ 佐藤和夫訳『精神の生活（上）』岩波書店、1994年

・ ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

・ ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

・ エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アーレント』

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

使用言語：日本語/Language: Japanese

科目名：哲学研究演習Ⅳ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM14210, 科目ナンバリング：LIH-PHI631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カントの目的論

2. Course Title (授業題目)：Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要：カントの『判断力批判』(1790)の第2部「目的論的判断力の批判」は、『純粹理性批判』と『実践理性批判』とのあいだに広がる自然と自由との断絶を架橋し、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、こんにちなお、生物学の哲学的基礎づけにとどまらず、自然における人間の生の位置と意味について、豊かな示唆を与えてくれる。

演習では「目的論的判断力の批判」の分析論から弁証論、さらに時間が許せば付録までを、邦訳をもとに読みすすめる。各回、担当者による読解の報告をふまえて、カント

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：『判断力批判』を読みといて、カントの目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 カント『判断力批判』第2部「目的論的判断力の批判」への導入

第2～7回 第1編 目的論的判断力の分析論

第8～11回 第2編 目的論的判断力の弁証論

第12～14回 付録 目的論的判断力の方法論

第15回 総括と討論

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判(下)』中山元訳、光文社、2023年。(教科書として生協に指定してあります。)

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な読解と咀嚼を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習V／Philosophy(Advanced Seminar)V

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM24210, 科目ナンバリング：LIH-PHI632J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリソン『カントの超越論的観念論』を読む

2. Course Title (授業題目)：Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense

3. 授業の目的と概要：アリソンの『カントの超越論的観念論—解釈と擁護』(改訂増補版, 2004年)を読む(英語)。おそらくここ四半世紀でもっとも重要な『純粹理性批判』の研究書であり、ひとつの里程碑として踏まえておくべきという地位をなお失っていないと思われる。

予定では、第1部のThe Nature of Transcendental Idealismから読み始め、時間が許せば受講生の関心に応じて別の箇所へ進む。演習では担当者による要旨の発表(日本語)につづいて、討議によって理解を深めるものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Reading Kant's Transcendental Idealism by Henry E. Allison.

5. 学習の到達目標：英語の専門的なカント研究書を読みこなす力をつけること。アリソン式のカント解釈の概要を学ぶこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To read a scholarly work on Kant in English. To obtain an overview of Allison's interpretation of Kant.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Part I The Nature of Transcendental Idealism

1 An Introduction to the Problem

2 Transcendental Realism and Transcendental Idealism

3 The Thing in Itself and the Problem of Affection

Part II Human Cognition and Its Conditions

4 Discursivity and Judgment

5 The Sensible Conditions of Human Cognition

6 The Intellectual Conditions of Human Cognition

Part III Categories, Schemata, and Experience

7 The Transcendental Deduction

8 The Schematism of the Understanding and the Power of Judgment

9 The Analogies of Experience

10 Inner Sense and the Refutation of Idealism

Part IV The Transcendental Dialectic

11 Reason and Illusion

12 The Paralogisms

13 The Antinomy of Pure Reason

14 The Ideal of Pure Reason

15 The Regulative Function of Reason

8. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004. ISBN-13: 978-0300102666.

(講読箇所のコピーを配布する。その他の箇所や文献表を参照するには、上記の冊子を買うほうが望ましい。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学研究演習VI／ Philosophy(Advanced Seminar)VI

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LM13307, 科目ナンバリング：LIH-PHI630J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Reason in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要：ヘーゲルをはじめとする近代ドイツの哲学者たちは、ドイツ観念論という名のもとにくられるのが一般的です。その場合、彼らの哲学が全体として観念論に属する、という先行了解が背後にあります。ただ彼らのテキストを実際に紐解くならば、事情はそう簡単ではないことが用意に見て取れます。そこで本演習では、ヘーゲルの『精神現象学』から「理性」章を取り上げ、観念論をめぐる議論を実際に検証してみることにします。そうすることで、カントの批判的観念論、ヤコービによる観念論と實在論の対比、フィヒテとシェリングにおける超越論的観念論な
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Wir werden das Vernunft-Kapitel von Hegels "Phänomenologie des Geistes" lesen. Dort wird diskutiert, was der Idealismus eigentlich bedeutet, sowie was die Realität für die Vernunft ist. Hegels Argumentation verweist viele vorhergehende Denker wie Kant, Jacobi, Fichte und Schelling. Hegels Auseinandersetzung mit ihren verschiedenen Behandlungsarten vom Idealismus wird uns klar machen, dass man Hegels Philosophie nicht einfach als Idealismus zu bestimmen ist.
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション(授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：近代的理性——意識の一形態としての理性——
第3回：自己意識としての理性——対象との関係と實在性の確信——
第4回：理性の立場としての観念論
第5回：観念論における實在性の位置づけ
第6回：理性とカテゴリー
第7回：カテゴリーはどのように対象に関係するか
第8回：カントの純粹統覚論との関係
第9回：観念論における真理概念について
第10回：理性の観察について
第11回：概念と物
第12回：理性の観察対象としての自然
第13回：普遍・特殊・個別
第14回：自然観察における認識の特徴について
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点(毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅶ／ Philosophy(Advanced Seminar)VII

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LM23307, 科目ナンバリング：LIH-PHI631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Self-Consciousness in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要： 自己意識は、近代哲学全体を貫く基本的モチーフの一つです。〈私は私である〉ということをめぐって、それぞれの哲学者がきわめて多様な理解を展開しました。その中でも、ヘーゲルの『精神現象学』における自己意識の理論はきわめて独自のものといえます。そこでは、〈私〉は単独的なものとしてではなく、別の〈私〉との相互的な関係に常にあるものとされています。ヘーゲルの自己意識理論は、近代的市民社会のありように密接にかかわるものとして、後代の様々な思想家によって注目され続けてきました。その意味でも、『精神現象学』の自己意識理論
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Das Selbstbewusstsein ist eines der wichtigsten Themen in der neuzeitlichen Philosophie. Was das bedeutet, dass Ich Ich bin, darüber haben jede Philosophen in der Neuzeit seine eigene Theorie entwickelt haben. In diesem Kontext ist Hegels Theorie des Selbstbewusstseins in seiner "Phänomenologie des Geistes" von eigentümlicher Bedeutung. Wir werden darüber anhand dem originalen deutschen Text diskutieren.
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション (授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：意識の一形態としての自己意識
第3回：自己意識の対象性について
第4回：生きたものは生きたものを対象とする——自己意識の対象としての生——
第5回：自己意識の基本的特徴としての欲望
第6回：自己意識と類
第7回：〈私は私である〉ことの意味とは
第8回：欲望の充足と自己確信
第9回：私と我々——自己意識の普遍性——
第10回：相互承認をめぐって
第11回：二重化された自己意識
第12回：主人と奴隷
第13回：労働と物の加工
第14回：労働を通じた自由の獲得
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：文 景楠

コード：LM15308, 科目ナンバリング：LIH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Aristotle's Ethica Eudemia
3. 授業の目的と概要：アリストテレス倫理学の基本文献である『エウデモス倫理学』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's Ethica Eudemia, one of the most important works in his ethical treatises. Students will be required to read the original Greek text with the recent critical edition and commentaries.
5. 学習の到達目標：アリストテレスの倫理学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's ethics and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める（オンライン授業の予定はない）。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アリストテレス倫理学の紹介
- 第3回 Rowe の序文を読む
- 第4回 第1巻第1章を読む
- 第5回 第1巻第2章を読む
- 第6回 第1巻第3章を読む
- 第7回 第1巻第4章を読む
- 第8回 第1巻第5章を読む
- 第9回 第1巻第6章を読む
- 第10回 第1巻第7章を読む
- 第11回 第1巻第8章を読む
- 第12回 第2巻第1章を読む
- 第13回 第2巻第2章を読む
- 第14回 第2巻第3章を読む
- 第15回 レポート構想発表

8. 成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む平常点 60%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。
Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：
古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。
Students are assumed to be familiar with the essentials of the Ancient Greek language.

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM21406, 科目ナンバリング：LIH-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：新プラトン主義の秘儀論を読む
2. Course Title (授業題目)：Neoplatonists on mysteries
3. 授業の目的と概要：秘儀等をめぐる新プラトン主義者（イアンブリコス、プロクロス、プロティノス）さらにはプラトンのテキストを原語古代ギリシャ語で読み、内容について議論する。
それを通じて、秘儀等をめぐる新プラトン主義・プラトンの論の理解を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We shall read texts by Neoplatonists (Iamblichus, Proclus, Plotinus, etc.) and Plato on mysteries and other related topics to understand their views on these topics.
5. 学習の到達目標：新プラトン主義の秘儀論の主要論点を理解する。重要なテキストの内容を正確に説明できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand main points about Neoplatonist accounts of mysteries.
To become able to explain main texts on these topics accurately.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
最初の数回でイアンブリコス『秘儀について』からいくつかのテキストを読む。それからどんなテキストを読むかは授業時に話し合って決める。

1. オリエンテーション
2. イアンブリコス『秘儀について』(1)
3. イアンブリコス『秘儀について』(2)
4. イアンブリコス『秘儀について』(3)
5. イアンブリコス『秘儀について』(4)
6. 第2テキスト (1)
7. 第2テキスト (2)
8. 第2テキスト (3)
9. 第2テキスト (4)
10. 第2テキスト (5)
11. 第3テキスト (1)
12. 第3テキスト (2)
13. 第3テキスト (3)
14. 第3テキスト (4)
14. 第3テキスト (5)

8. 成績評価方法：

授業時のパフォーマンス

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習、読んだ箇所の復習

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM13508, 科目ナンバリング：LIH-PHI612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
 2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
 3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.
 5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
 7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読
- 第二章 純粋理性のアンチノミー
- 第一節 宇宙論的理念の体系
 - 第二節 純粋理性の背反論
 - 超越論的理念の第一の抗争
 - 第一アンチノミーに対する注解
 - 超越論的理念の第二の抗争
 - 第二アンチノミーに対する注解
 - 超越論的理念の第三の抗争
 - 第三アンチノミーに対する注解
 - 超越論的理念の第四の抗争
 - 第四アンチノミーに対する注解
 - 第三節 これらの抗争における理性の関心について
 - 第四節 端的に解決されうるはずであるかぎりの、純粋理性の超越論的課題について
 - 第五節 四つの超越論的理念すべてをつうじて生じる宇宙論的問いの懐疑的な表象
 - 第六節 宇宙論的弁証論を解決するカギとしての超越論的観念論
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。
 9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
 10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM23508, 科目ナンバリング：LIH-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
読解は前期の続きから始めるが、後期から参加した受講生がいる場合は、前期の復習の時間を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読
第七節 宇宙論における、理性のじぶん自身との抗争の批判的判定
第八節 宇宙論的理念にかんする純粋理性の統制的原理
第九節 あらゆる宇宙論的観念にかんして、理性の統制的原理を経験的に使用することについて
 - I 世界全体という現象の合成における、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
 - II 直観において与えられた全体の分割にさいしての、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
数学的一超越論的理念の解決に対する結びの注、ならびに力学的一超越論的理念の解決への予備的注意
 - III 世界のできごとをその原因からみちびき出すさいの、導出の全体性にかんする宇宙論的諸理念の解決
自然必然性の普遍的法則と統合された、自由による原因性の可能性
普遍的な自然必然性と結合された、自由という宇宙論的理念の解明
 - IV その現存在一般という面での、現象の依存性の全体性にかんする宇宙論的理念の解決
純粋理性のアンチノミー全体に対する結語
8. 成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12509, 科目ナンバリング：LIH-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

私たちは、何かを知覚し、想起するといった経験をjする。このとき、私が何かをjするという主j的、能動的な働きをまず考jえがちであるが、その土台として、自我の関与なしにおjのずと生起する連合や触発といった働きが先行している。これはカント的な総合と区別して受動的総合と呼ばれるが、フロイトの無意識とは違jった意識のあり方である。『受動的総合の分析』では、自我からの能作の関与していない感性野の自発的組織化が明らかjにされるが、そこでは感情契機のはたらきや意識が流れることjの分析を通じて、自我、時間といったことjが解き明かされていくことになる。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の序論を読んで枠組を確認する。本書はもともと講義録であるが、精読を必要とする。授業では議論をていねいに読み解きながら、知覚、総合、自我、時間といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこれらの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、「知覚における自己所与」読解 (1)

3、「知覚における自己所与」読解 (2)

4、「知覚における自己所与」読解 (3)

5、「知覚における自己所与」読解 (4)

6、中間まとめ1 パースペクティブについて

7、「受動的総合の原現象」読解 (5)

8、「受動的総合の原現象」読解 (6)

9、「受動的総合の原現象」読解 (7)

10、「受動的総合の原現象」読解 (8)

11、中間まとめ2 連合について

12、「受動的総合の原現象」読解 (9)

13、「受動的総合の原現象」読解 (10)

14、「受動的総合の原現象」読解 (11)

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみるjこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22508, 科目ナンバリング：LIH-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『受動的総合の分析』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『受動的総合の分析』における有機的世界の構成

2、「触発の現象」読解（1）

3、「触発の現象」読解（2）

4、「触発の現象」読解（3）

5、「触発の現象」読解（4）

6、中間まとめ1 触発について

7、「触発と連合」読解（5）

8、「触発と連合」読解（6）

9、「触発と連合」読解（7）

10、「触発と連合」読解（8）

11、中間まとめ2 連合について

12、「触発と予期」読解（9）

13、「触発と予期」読解（10）

14、「触発と予期」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート50%

平常点50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15407, 科目ナンバリング：LIH-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 1

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 1

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25407, 科目ナンバリング：LIH-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 2

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 2

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を、前期に続けて講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM15503, 科目ナンバリング：LIH-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディアと情報倫理

2. Course Title (授業題目) : Media and Information Ethics

3. 授業の目的と概要：ソーシャルメディアは、人々のネットワークを拡大する情報インフラとして現代における社会生活の基盤をなしている。しかし、そこで交換される情報や、形成される人間関係は、利用者をしばしば傷つけ、人々の間で相互不信を増す働きをもつ。この現状を理解し、対応策を考察することは情報倫理学にとって重要な課題である。この授業では、この目的を果たすために、SNS に関する認識論、倫理学上の文献を講読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Social media form the foundation of modern social life as information infrastructures that expand people's networks. However, the information exchanged and relationships formed on social media often harm users and increase mutual distrust among people. Understanding this situation and considering how to deal with it are important issues for information ethics. In this class, we will read the epistemological and ethical literature on social networking in order to fulfill this objective.

5. 学習の到達目標：マスメディアや SNS などの情報メディアの特性を理解する。

マスメディアや SNS などの情報メディアの認識論的、倫理的課題を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To understand the characteristics of information media such as mass media and SNS.

To understand the epistemological and ethical issues of information media such as mass media and SNS.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

SNS の認識論や情報倫理に関わる論文と書籍を読む。授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する。

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：